

部会意見まとめと方向性（赤字：施策シートの修正が必要な箇所、太字：委員からの意見）

				項目	委員質問・意見	事務局回答@部会	太字意見に対して今後の方針	
				部会1全般	<p>【河委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体と取り組みが類似している点はやはりある。飯塚でないといけないことも考えたいが、APUの連携は一つの起点になると期待している。 <p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐津市の例として、早稲田佐賀高校に入れば一定数早稲田大に進学できる。例えば、APUなど私立高校を飯塚に呼んで、一定数の大学に入れる仕組みがあるとグローバル人材育成にもつながり活性化する。 		<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・APUとの連携については具体的な施策を作りこんでいく方針。例として、 ⇒飯塚市が抱える課題をテーマに、APUキャンパス内にて九工大生・APU生を対象にしたアイデアソンを実施予定 ⇒海外展開を目指す飯塚市内事業者のテストマーケティングをAPU留学生に対し実施予定 など。 ・飯塚にいと、APUとつながりグローバルマインド醸成やグローバル化へのアクションにつなげやすいといったメリットを生み出していきたい。 	
1 飯塚を担うヒトづくり	1-1	市内企業 の雇用促進	1-1-1	市内企業と求職者の出会いの場の創出	①合同会社面談会（雇用）	<p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度は講習会に参加しないと合同会社面談会にエントリーができなかった。現状はどのようになっているか。企業に対して条件提示もしているか。 ・雇用創造協議会事業は今年末まで国の予算で実施することであるが、次年度以降、協議会にお任せではなく、どのように動いていくのかを考える必要がある。 ・事業が延長となった場合においても、協議会にお任せして成果があったか検証する必要はある。 <p>【河委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年は企業が絞られるということか。 	<p>【雇用促進担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には企業が講習会を受けて、求職者がセミナーを受けて、双方をマッチングする形である。昨年度までは講習に参加した企業だけではできなかったため、講習会不参加の企業も参加いただいた。今年度については講習会に参加した企業を優先に、早期に日程を決め多くの求職者に参加してもらえるようにしたい。条件提示も今年度実施している。 ・国の地域雇用活性化推進事業については3回までの回数制限が示され、飯塚市は現時点で2回。3回目（事業期間：令和7年度10月～令和10年3月）をもう1度活用して進めてまいりたい。 ・会場の関係上30社程度になる見込み。 	<p>【雇用促進担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降、厚生労働省に地域雇用活性化推進事業の申請にあたっては、飯塚地域雇用創造協議会での事業の成果等を検証し判断する。
					②デジタル人材と企業のマッチング促進事業（雇用）			
					①つなぐカフェ@飯塚（産学）	<p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的が地域全体の活性化を促進とあるが、利用者が学生・企業・市民のどが多いのか、内訳を分けてカウントする必要はあるのではないかと。どういう人が利用しているか把握しておくべき。 <p>【河委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者ノートなどに、学生・企業・市民くらのカテゴリーを設けてはどうか。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常駐がないため詳細の把握が難しく、利用者ノートや予約申請情報をもとに整理している状況。大枠でしか把握できていない。 ・ご意見を踏まえ、今後どのように管理するか考えたい。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなぐカフェの参加集計方法を見直し、QRコードを使用した登録管理・利用者属性の把握を行う。
					②産学官交流促進事業（産学）	<p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催したからいいということではない。内容が大事で、市内の大方の企業にマッチングするようなものでないといけない。そこを踏まえて効果があったのかを検証すべき。 ・飯塚市として毎回PDCAを回しているのか。参加者に有益なものとなるように、報告者を誰にするかなどよく検討をお願いしたい。内容を部会などで検討しても良いのではないかと思った。 ・セミナーを業務時間内で実施するようにお願いした経緯があるが、そのようにしてもらっており良かった。経営者として社員に残業で送り出すことは難しい。 <p>【河委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究者としては魅力的な内容にも見えるが実際企業の方はどれくらい参加しているのか。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は ①飯塚地域自動車研究会の関係で自動車産業の電動化対応【38名】 ②コンテンツ業界トップランナーからの大学生向けクリエイティブ人材育成講座【15名】 ③地域産業のDX化、chatGPT・ノーコードツール（嘉産協）【64名】 ④医療福祉機器参入（飯塚研究開発機構）【59名】 ⑤A1×イメージング（九工大とのコラボ開催）【60名】 ⑥ブロックチェーン・Web3.0【45名】 ・アンケートを取り、希望テーマなどを聞いている。飯塚研究開発機構や嘉産産学振興協議会ともよく話して企画している。学生の参加は学生向け講座以外はほとんどない。（上記カッコ内がほぼ企業の方）。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者にとって有意義なものとなるように内容を検討をする上で、企業の方の声を参照する。特に参加者からのアンケートを充実させ、適切なフィードバックを行い効果的に運営する。
					③大学生への説明会・面接会			
					④大学生の企業訪問事業（雇用）	<p>【河委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い事業だと思うが、参加企業も参加者が少なく、就業にもあまりつながっていない。学生に参加するメリットを感じてもらえないと参加は難しい。 <p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社を見るだけではあまり意味がない。ただ訪問するだけでなく、例えば、学生から経営者にインタビューすることで企業にも気づきがあったりと、インタビューというやり方もある。ぜひ検討を。 	<p>【雇用促進担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日で3企業をまわるプログラム。学生が少ない夏休みなどに実施してしまっただけが少ない要因の一つ。 	<p>【雇用促進担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも単に企業を訪問し見学するだけではなく、参加学生と経営者や従業員との意見交換の場を設けてきた。学生が市内企業に興味をもつよう取り組んでいきたい。
					①嘉飯産学振興協議会事業（人材育成事業）（産学）			
					②デジタル活用による健康経営講習会（雇用）			
					①採用力強化講習会（雇用）			
					1-1-2	市内企業の魅力向上支援	<p>(1)市内企業の魅力創造・向上の強化</p> <p>(2)市内企業の経営力・採用力の強化</p>	
1-1-3	多様な人材の雇用促進	(1)多様な働き方に関するセミナーや研修の強化	①求職者支援事業（多様な働き方に関するセミナーや研修の強化）（商工）	<p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催したからいいということではない。内容が大事で、市内の大方の企業にマッチングするようなものでないといけない。どういった内容であったか。そこを踏まえて効果があったのかを検証すべき。 ・事業名が求職者支援事業となっているが、内容からすると対象が違うのではないかと。事業名が不一致している。 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県が主催、市が共催という位置付けで、日常労働相談、職場のハラスメント相談、解雇・雇止め相談、労働教育講座を実施。また市後援で働き方改革、過労死防止をテーマに実施。出席者はおしなべて10名程度。 ・県にも申し伝えたい。 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーの内容としては、今社会問題となっているハラスメントなどの企業にも必要とされる内容となっている。市は県が実施するセミナー等に共催、後援という形ではあるが、セミナー参加によって参加者にどのような心境の変化があったかなど、セミナー参加者アンケートの内容を県から共有してもらい、セミナー実施の効果を検証する。 		
			①UIターン説明会・相談会（雇用）	<p>【河委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度に比べ2023年度の紹介者数が大きく増えている。就労にはなかなかつながらないか。 <p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他自治体でも似た取り組みをしている。パンフレットに企業情報を載せる際に、将来を見据え、企業からお金をいただく仕組みもあるだろう。たくさんの企業を紹介するように。 	<p>【雇用促進担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冊子を作ったことと、回数を1回から2回に増やしたことが功を奏した。就労にはなかなか結び付いていない。 ・現在は国の事業ということで企業情報の掲載は無料で行っている。国の事業が終わった際には検討できる。 	<p>【雇用促進担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降、厚生労働省に事業を新たに提案し、採択された場合は、従来通り国の委託費を活用し、無料で企業情報を掲載するパンフレットを作成することができる。なお、国の事業が終了した際は、掲載企業に費用負担を求めるなどパンフレットの作成について検討する。 		
		(3)外国人材の活用促進	①外国人材受入環境整備事業費補助金（国際）	<p>【瓜生委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外の管理団体から市内に切り替えることは難しかったというのはどういうことか。 <p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送り出し側の管理団体と受け入れ側の管理団体があるかと思う。送り出す時点で受け入れ先が決まっているのではないかと。それであれば送り出し側と連動しながら市内団体を使ってもらうようにしていくべきではないか。市内にどれだけの管理団体があるか。 	<p>【国際政策課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理団体を通して企業が受け入れ。受け入れた人材の管理もその団体が行っている。市内管理の団体が市内の企業を管理するほうが支援等円滑になるので、できるだけ市内の管理団体を使うように補助金額に差をつけている。しかし、市外の団体を使っているところが、市内に切り替えるということは難しいという課題が分かった。課題を整理してもっと使いやすくなるよう検討したい。 ・企業が国を変更する際や今の管理団体とうまくいっていない際などに、市内団体の活用を促している。市内には7社あり定期的にコミュニケーションをとっている。市のHPにも受け入れを検討される企業向けガイドブックも公表している。 			
			①福岡県生涯現役チャレンジセンター（商工）	<p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く側は年齢層が高くなっており、短時間で働くことを希望する人が多いと感じる。これから先を考えると50-60代の方が今まで取り組んできた分野などで能力を活かすことが望ましいが、受入企業が短時間でも構わないなど、働き方を柔軟に認められるようにならないといけない。そうなるように企業向けに何か行っているか。 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県が設置していることもあり、県に対していただいたご意見をお伝えしたい。 			

部会意見まとめと方向性（赤字：施策シートの修正が必要な箇所、太字：委員からの意見）

		項目		委員質問・意見	事務局回答@部会	太字意見に対して今後の方針		
1 飯塚を担うヒトづくり	1-2	就職促進	1-2-1 市内企業と求職者のマッチング強化（1-1-1再掲）	(1)市内企業と求職者の出会いの場の創出	①合同会社面談会（雇用）			
					②デジタル人材と企業のマッチング促進事業（雇用）			
					①つなぐカフェ@飯塚（産学）			
				(2)市内企業と大学生の出会い・交流の場の創出	②インターンシップ推進協議会事業（産学）	【鶴田委員】 ・インターンシップの期間はどれくらいか。4日以内はオープンカンパニー、5日以上がインターンシップと称するようである。 インターンに参加し、実際に就職につながるようなものにしていただきたい。 【河委員】 ・短期であると就職に繋がりにくく、近大では長期インターンシップを重要視する傾向にある。	・個別に把握していないが、短期間のものもあると承知。 ・また後日インターンシップ協議会が開催されるのでその際にも意見したい。	【産学振興担当】 ・インターン受入企業によっては半年を超えるものもあり、そういった会社を増やすことで就職により直結するようになっていく。
			③大学生への説明会・面接会（雇用）					
			④大学生の企業訪問事業（雇用）					
		1-2-2	就労相談	(1)フンストップサービスセンター-e-ZUKAでの就労相談実施	①フンストップサービスセンター-e-ZUKA事業（商工）			
			(2)市内企業に関する情報提供機能の強化	①求職者支援事業(飯塚市内企業に関する情報提供機能の強化)（商工）	【田中委員】 ・2023年度は意見交換を開催できなかったということが。	【商工観光課】 ・関係者全員が集まってという形はできなかったが、個別に各団体との意見交換を行った。		
	1-3	人材育成	1-3-1	キャリア教育・リカレント教育・女性の活躍の促進	(1)市内企業と学校とのキャリア教育の連携強化	①キャリア教育（産学）		
					(2)市内大学と連携したリカレント教育の促進			
					(3)地域経済での女性の活躍促進	①テック×デザイン講座（産学）	【河委員】 ・非常に面白い取り組みであるが、参加者が少ない点が気になる。趣旨は良いので、 高校にやってもらうのもよいかもしれない。 【鶴田委員】 ・嘉穂総合高校に情報関係を入れると、求められる人材育成ができ、外からも人が来るようになるのではないか。（飯塚市外であるが）県にも掛け合って筑豊地域で人が入ってくるようになると全体でレベルアップする。	【産学振興担当】 ・中高生が塾で忙しい、女性に絞ったということで狭くなった。 ・Pythonやデザインシンキングなど今の時代に必要な内容であり、男性や小学生を含めるなど広げていく余地はある。 ・もう少し早く広報を始めるなど工夫したい。
				1-3-2	デジタル人材の育成	(1)小中高大連携によるデジタル人材の育成	①デジタル人材育成事業（雇用）	
				(2)求職者のデジタルスキル向上強化	①デジタル人材育成講習会（雇用） ②学び増し人材育成講習会（雇用） ③DXリーダー育成講習会（雇用）			
			1-3-3	グローバル人材の育成	(1)姉妹都市との交流を通じた学生の人材育成	①グローバル人材育成研修事業（国際）	【鶴田委員】 ・1月にA P U・九工大・飯塚市で連携協定を締結したが、本事業との関係性はどうなっているか。 ・今後の方向性や改善策において、協定をどう生かしていくかを示しておくべき。 ・ 飯塚市内の中高校生が将来的に九工大やA P Uへ積極的に進学できる環境が整えられ、インターナショナルな人材が育成されればと思う。協定もあることから飯塚の生徒をどんどん受け入れようという状況になって欲しい。 ・市外の人が飯塚の高校を目指してもらいようになり、飯塚から多くの人が九工大・A P Uへいくようになると、飯塚の学業レベルも上がっていく。 【河委員】 ・定員上限が20名ということが。応募者はどの程度か。たくさんの応募者が現れ、参加したいけどいけない人は国内でも経験が詰めるという仕組みができると良い。	【産学振興担当】 ・A P Uの半数以上が留学生。飯塚市のグローバル化のために連携が必要と考えた。 ・サニーヴェールへの派遣費用の3割は自己負担であり、定員20名と多くの人が参加できるものでもない。できるだけ多くの人が国際交流できるように、バスでも移動できる距離間のA P Uや九工大と一緒に国内留学体験のようなものを提供していきたい。 ・小中高生が九工大・A P Uをあこがれるようになってほしい。そのために触れあえる場所を用意していきたい。 【国際政策課】 ・今の事業の中で申し上げれば、渡米前の事前研修において、九工大留学生に英会話講習をしてもらっている。ここにA P U学生も参加してもらいたいことも考えられる。 ・定員が20名であり、応募はおおむね40名程度。自己負担額があることや事前講習を含めスケジュールすべてに参加することなどハードルもある。
		(2)姉妹都市交流事業（国際）	②姉妹都市交流事業（国際）	【田中委員】 ・受け入れるホストファミリーは少ないのか。期間は。 ・ホストファミリーに登録する最初のきっかけを作ることが重要。構えている部分があると思う。	【国際政策課】 ・どうしてもいつも同じ人たちになってしまっている。アメリカから来る方は英語しか話せない人が多く言葉の壁がある。約1週間受け入れ。受け入れた家族からは「よかった。また参加したい」など好評。			

部会意見まとめと方向性（赤字：施策シートの修正が必要な箇所、太字：委員からの意見）

項目				委員質問・意見	事務局回答@部会	太字意見に対して今後の方針	
部会2全般				<p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「支援機関」という言葉がいくつかあるがどういったところを指すのか。 支援機関がどこなのか分りにくいのではないかと。 まずは飯塚市に相談すれば適切な機関へつないでもらえるという認識でよいのか。 産業振興ビジョンP61に運営部会が明記され、役割として「関係機関間の協力調整ならびに進捗管理を担う」とされている。こういった協議会か聞いたのも、部会の役割を意識したもので、この役目を部会として真剣に取り組みべき。 4月の市報に令和6年度施政方針が出ているが、記載が産業振興ビジョンに合致していない、さらに産業振興ビジョンのことが書かれていない。市民の方が産業振興ビジョンの情報を得ることができない、存在を知らない。産業振興ビジョンに沿ってこういうことをすると書かないといけない。基本にあるものは何か、だからこういった施策をすと示すべき。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商工会、商工会議所、飯塚研究開発機構、金融機関などを指している。産業振興ビジョンP62「実施体制全体像に基づく関係機関の役割」の機関をまとめたような表現。 【国際政策課】 海外展開でいくと、初期段階には中小企業基盤整備機構が、具体的になってくるとJETROなども出てくる。 ご認識の通り。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施政方針等、市民の目に触れる機会をビジョンを明記し、広く認識いただけるようにする。産業振興ビジョン進捗資料に関して市のHPで公表を行う。 	
2-1	新視事業創出・事業拡大・第二創業（企業の新陳代謝）の促進	2-1-1	新技術・新製品・新商品開発助成の強化	<p>①新技術・新製品開発補助金（産学）</p> <p>【日吉委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交付企業は2022年度～2023年度で重複しているのか。そもそも重複して申請は良いのか。 中小企業としては150万円・2/3補助でもありがたい。現場で一番課題になっているのは、書類や手続きが面倒くさいということ。この入口の壁を越えられるような手続きになっていればもう少し申請が増えると思う。 <p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 申請企業数が少ない。企業側の自発的申請なのか、市がお付き合いあるところによりませんかという提案なのか。こういうアナウンスを行っているのか。 申請は自発的であるべきだが、呼び水のように何か声掛けはしていかないと難しいのが現状と認識した。 過去に市の補助金を使ったが、あまりフォローアップがなかったと記憶。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 重複していない。重複申請は可能。 どうしても市の公的なお金であるため、適正な審査や手続きが必要。窓口に来てもらえれば可能な限り一緒に考えながら申請のサポートをしている。ぜひ個別にアプローチいただきたい。 基本的に企業から申請したいという流れであり、こちらからお願いしてということではない。ただし機会があるごとに、こういった補助制度があるということを産業支援機関や企業の方にアナウンスし、市報にも載せたりしている。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公正な手続きは担保しつつ、煩雑な手続き部分は可能な限り市の方で伴走サポートを行う。 引き続き、事業期間終了後5年間はフォローアップを行い、効果的な補助交付であったかの検証や必要なサポートを実施する。 	
			2-1-2	産学官連携などによる研究開発の推進	(1)研究開発促進に向けた助成の実施	<p>②研究開発支援事業（産学）</p> <p>【林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飯塚研究開発機構の補助金も10年前に比べ申請が減ってきているように感じる。メルマガなどで発信しているがコーディネータが企業を回る際に補助事業を紹介し申請へつなげている。 製品試作補助金は手出しが実質3万円。こういった事業から、次の研究開発補助金につなげていっている。なかなか現場レベルでは意思決定ができず、社長に説明する際に費用対効果があると説明できるような手出しができるだけ少ないようにと工夫している。 <p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 採択された事業を実施した後、フォローアップは行っているか。 <p>【林委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 採択された企業は何度も訪問しており、開発の後も展示会出展支援なども実施している。 	
		(2)医工学連携の推進			①医療・福祉関連機器開発支援事業費補助金（産学）		
		(3)大学との連携促進に向けた窓口の設置・情報発信の強化		①大学コンシェルジュ（産学）			
		2-1-3	国内・海外ビジネス展開の推進	(1)国内外の販路開拓に取り組む市内企業支援の強化	<p>②海外展開支援事業費補助金（国際）</p> <p>【日吉委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果「活用しやすい補助内容に改めた」とは具体的にどうしたのか。 事業後のフォローアップや採択された企業の動きを一般市民がどこかで確認することはできるのか。 採択されてこういったものに使われたというところで情報を出せないか。事業者として、具体的にどういったことに使われるのかイメージができない。こういったことに使われたということが写真や情報がHPなどにあれば、申請してみようとなる。言葉としては説明だけでなく、視覚的にわかると裾野がもっと広がる。ものとしてこういったものだとわかるようになるという。 <p>③海外販路開拓事業（国際）</p>	<p>【国際政策課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年度は上限5万円であったが、2023年度は条件に応じ3パターン（10万～30万円）に設定した。 補助金交付後、実績報告をしてもらっているが、内容として個別の企業の情報が含まれるので公表はしていない。 <p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者名・事業名までは公表しているが、画像のようなものはない。 新技術新製品補助金だと出しにくい情報もあるが、販路関係は余地がある。検討する。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 採択された案件がイメージしやすいように画像も掲載し、申請を検討する人にとって参考となる情報を出していく。
2-1-4	先端情報技術の推進	(1)先端情報技術（ブロックチェーン等）の開発・導入の推進	①先端情報技術開発支援補助金（産学）	<p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の方向性を具体的に記載するように。 ブロックチェーンが具体的にどう使われているのか分かるようにすべき。言葉の説明が抽象的である。今どういうことをやっているのか具体的な名称を挙げて、どういう段階なのか、進捗が分かるように具体的に記載を。 <p>【小島委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> どんなプロダクトができたか成果を報告するような場はあるのか。何か冊子のようにまとめたりのないのか。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場での実装事業が市内2カ所で動いている。ブロックチェーンが日常で使われ、ブロックチェーンを核とした新産業が出てきて、企業が集まるように考えている。 報告会があるが審査委員向けのクローズの場。市民向けにはニーズ会（講演会）でブロックチェーン事業の取り組みの一部をお話した。ブロックチェーンは具体的なものとして認識することが難しい。冊子はいづかブランド認定製品においてはあ。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロックチェーンの具体的な活用が分かるようにする（資料5-2別添参照） 	
			②先端情報技術実証実験サポート事業（産学）				
2-1-5	経営相談・支援	(1)事業の継続・拡大に向けた相談窓口の設置及び支援（売上拡大、経営改善、資金調達、事業承継、M&A等）の実施	①よろず相談窓口における経営相談（産学）				
			②事業承継・後継者育成事業（商工）	<p>【鶴田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート実施とあるが、その結果は公表しないのか。 事業者名がわからなければいよいよではないか。どういった悩みを持っているかなど、実態が分かるように出していくべき。 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業承継に絡む個別の情報が入るため難しい。 福岡県の事業承継センターと実施しており県の方にもご意見を伝える。 		

部会意見まとめと方向性（赤字：施策シートの修正が必要な箇所、太字：委員からの意見）

		項目				委員質問・意見	事務局回答@部会	太字意見に対して今後の方針	
2 成長する会社づくり	2-2	生産性向上	2-2-1	設備投資の促進支援	(1)生産性向上に資する生産設備向け支援の実施	①設備投資に係る固定資産税特例(企業)	【鶴田委員】 ・飯塚市内案件で2023年度認定企業数14社とあるが、福岡県全体では242社うち賃上げを行ったのが176社、全国では8917社で賃上げ5371社である。飯塚の数字は多いのか少ないのかどうとらえるか。 ・ 全体として周知が課題 。HPに挙げているからよいという考えは辞めるべき。	【企業誘致担当】 ・本制度は平成30年度に生産性向上特別措置法に基づく優遇制度として開始され、周知についてはHP及び市報への掲載、市長定例記者会見による新聞掲載により実施。また、各団体（嘉飯桂産業振興協議会、商工会議所、商工会）を通じ、市内企業向けの説明会を市役所で開催。 ・現在、関係法令は変更となったものの対象事業は変更なし。優遇措置は当初3年間は固定資産税全額減免だったが、令和5年度からは条件により1/2～1/3に軽減となっているものの令和6年度末までの時限立法であることから、次年度以降の国等の動向を注視し対応したい。	
			2-2-2	デジタル化・経営力強化支援	(2)市内企業のデジタル導入・経営効率化に向けた支援の実施	①デジタル化による事業拡大講習会(雇用)	【日吉委員】 ・デジタル化は何を指すか。3社支援とあるが具体的な内容はどんなことをしたのか。ソフトを入れるということか。RPAなどもあるのか。 【鶴田委員】 ・飯塚地域雇用創造協議会のことがよくわからない。会長は誰か。協議会事業に参加している企業も協議会のことをよくわかっていない。 協議会のことをしっかり紹介していくべき。 【林委員】 ・参加企業の小売・製造の割合は。 ・講習会に関し、飯塚市でよく取り組んでいるノーコードも含まれるか。ノーコードも取り組むと良い。飯塚研究開発機構でも企業向けにデジタル化人材育成の実習を行っている。ぜひ紹介させてほしい。	【雇用促進担当】 ・ITを活用し生産性向上等を図る取り組みを指す。新製品の販売促進、健康経営の拡大、業務効率化・介護サービスの質向上。ソフトを入れることもあるが、ソフト以前の改善策を講じたりしている。RPAもある。その現場に合わせ、アドバイザーを入れて解決している。 ・雇用創造協議会の会長は市長。 ・全48社中、23社が小売り向けセミナー、25社が製造向けセミナーに参加。ただし必ずしも小売り向けセミナー参加者全員が小売業、製造業向けセミナー参加者が製造業というわけではない。 ・ノーコードは求職者向けに実施した。企業向けは今年度少し実施する予定。	【雇用促進担当】 ・飯塚地域雇用創造協議会が実施する企業向けの講習会をはじめとした各種活動については、同協議会のSNS、市のホームページ、構成会員である商工会議所、商工会、嘉産協等の協力を得て市内の企業へ周知を行っている。今後も市内企業や求職者に対し、同協議会の活動内容についてしっかりと説明していく。
					②デジタル化における伴走型支援及び好事例・ノウハウの展開(雇用)	【鶴田委員】 ・支援先3社は誰がどうやって選考したか。 ・実績の欄に雇用者数が書かれているのが指すのか。 ・ 意図の欄にはあるが、概要の欄には雇用を創出するという目的が書かれていないので、目的をはっきり書くべき。	【雇用促進担当】 ・2022年度セミナー参加者の中から業種等が被らないように選んだ。 ・国の委託事業の中でも、雇用者を3年間で149名分生み出すことが目標となっている。そこと連動し設定。今年度末に3年間の数値が出る。		
					①嘉飯桂産業振興協議会事業(産学)				
	2-3	産業間・企業間の連携促進	2-3-1	域内企業間取引の拡大	(1)市内企業間のネットワークの強化	②誘致企業への市内企業の紹介(企業)	【鶴田委員】 ・ 進出企業と立地企業の定義は、工業会は何を指すか。 ・ 検索しても出てこない言葉なので、一対一でわかる言葉にしてほしい。	【企業誘致担当】 ・進出企業は新たに飯塚市内に來られた企業、立地企業は既に飯塚市内にある企業（工業団地に限定されない）という意味で記載しているが改めて整理したい。 ・工業会は各工業団地の中にある会。	
						2-3-2	商業等施設間の連携促進	(2)商業等施設間の回遊性の促進	①周遊商業エリア連携事業(商工)
			2-3-3	農業の活性化	(1)6次化を目指す農林事業者等と異業種のマッチング支援の実施	①地元ブランド化推進事業(特産)	【林委員】 ・何製品くらい登録されているのか。 ・ふるさと納税の返礼品に同封して案内するといったことはできるか。 【日吉委員】 ・市内事業者の間では認知度は向上しているが、市民の方からの認知度は低いとあるが、市民としていづかブランド商品を使う・贈るメリットは何か。 ・事業者がいづかブランド製品としてPRする、市役所が認定製品まとめて広告をするというところに、 市民も加わってPRしていけると広がり方が違うはず。例えば、いづかブランド専用の飯塚市オリジナル紙袋を使えるようにするなど、広められるようお願いしたい。	【特産品振興・ふるさと応援課】 ・2023年度は5製品、2022年度は9製品、その前が17製品であり、合計31製品。冊子にもなっている。 ・販売先に制限がある事業者がある（全国販売していないところも）ので、実施するには課題がある。 ・認定された商品はそれだけクオリティが良い製品と思っていただきたいが、まだいづかブランドって何だろうという認識にとどまっている部分もあるので、様々な工夫が必要。認定事業者を集めた意見交換会も実施予定。	【特産品振興・ふるさと応援課】 紙袋は歩く広告塔とも呼ばれるため、非常に効果があると思う。自社の紙袋を使用したい事業所もあるため、飯塚市主催の催事の際に統一して使用するデザイン性が高い専用袋の作製など検討していきたい。併せて、市内外問わず催事で広範囲でいづかブランドをPRするため、いづかブランドののぼり旗や法被を作製することも検討していきたい。
						②ICT等を活用したスマート農業の推進	①水田農業DX推進事業(農林)	【日吉委員】 ・参加者に対しては農業者がお世話する形か。受け入れ先はどれほどあるか。2022年の農泊者数92名は何グループになるのか。 ・SNSはどういったものを活用しているのか。 ・海外も対象ということで、 Airbnb （ホテルではなく一般の方の部屋を宿泊予約できるサイト）を利用する人が多い。飯塚にも2-3件宿泊登録がある。標本の方にあるようで、海外の人が泊まってよかったというコメントをしている。 発信力があるプラットフォームであり、そういったところにPRできるとよいのではないか。 今までの有名な都市圏の旅行に飽きた人に届く面白いサービスだと思う。日本一高価な民泊を目指すということで合致している。 【鶴田委員】 ・農泊者数受け入れ事業者数はどれくらいか。	【農林振興課】 ・農業体験の部分は指導のできる地元の農業者が行う。受け入れ先は1事業者3カ所で行っており、農業体験はそのうち1カ所。古民家で宿泊し地元の食材を使った料理を堪能する。グループ数までは把握していない。 ・飯塚市単体ではなく、国の補助事業ということもあり九州農政局、そして福岡県のコンテンツで発信。 ・受入側キャパシティの問題もあるが、ご意見としてはしっかり関係者共有させていただきたい。

部会意見まとめと方向性（赤字：施策シートの修正が必要な箇所、太字：委員からの意見）

		項目	委員質問・意見	事務局回答@部会	太字意見に対して今後の方針		
3 新しい会社づくり	部会3全般		<p>【長田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンドの取り組みについては話し合われているのか。インバウンドを取り込みたいという飲食店のニーズも多い。何か取り込むような施策はないか。 福岡市も東京も外国人が多く来ている。福岡飯塚は1時間で移動できる。ゴルフの利用者も多い。せっかく来ているなら市内に回していく仕組みがあると飯塚も潤う。回遊できるようになるといい。 福岡市ではスタートアップが集まる施設があるが飯塚にはないか。 嘉穂劇場の動向はどうなっているか。周辺は道も大きくなり、マンションもあり、この名所が復活できるとにぎやかになる。 <p>【小島委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、福岡市からの伝右衛門号のバスは出ているのか。伝右衛門邸へ来る人が減っているように感じさみしい。 <p>【長田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市外から移住した人向けに市が補助する制度はあるのか。人口が減っていく中、飯塚に住む人を誘致しておくことも必要。 <p>【荒木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを育てるには良い環境であるが、ちょうど良いところで住むところがない。空き家がうまく活用されていないという問題もある。 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光の観点でインバウンドに限らず人を呼び込む取り組みは進めている。例えば、旅行代理店に大浦荘のイベント情報などを提供し商品化してもらっている。インバウンド特化ではない。 現在、外国人がどこからどこに来ているかのデータ取得を調整している段階で多言語表示をどう出すかなども動いている最中。 <p>【産学振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> インキュベーション施設としてはトライバレーセンターだが、福岡市のような施設にはなっていない。地域の人の交流から生み出すという点では「つなぐカフェ」をゆめタウンに設置している。 嘉穂劇場は耐震の問題があり、まだ再開に関して何か情報があるわけではない。 担当課にも伝えたい。 <p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝右衛門号は現在なくなっている。 <p>【企業誘致担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住で60万円、移住して住宅を取得する場合は100万円といった補助金性がある。（諸条件あり） 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後DMO設立に向けた勉強会を開催し、飯塚市におけるインバウンドも含めた誘客について検討する。 		
	3-1	創業・起業促進	3-1-1	創業支援制度の構築	<p>(1)創業支援のための融資・助成の実施</p> <p>①飯塚市中小企業支援融資制度(中小企業融資資金)(商工)</p> <p>【長田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既に実施が始まっているのか。 自動的にキャッシュバックということではなく、申請することで一定率・額が返ってくるということか。 <p>【小島委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金と併用はできるのか。 利子の設定として魅力的なものになっているか。 <p>【長田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融機関目線でも魅力的な設定になっていると思う。 <p>【荒木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ活用件数が0件なのか理由はああるか。 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既に実施している。 その通り。 可能。 保証協会や他市からも情報収集し。かなり魅力的な設定にしている。 ソフトウェア関連産業に絞るなど時代に合わなくなっていた。そのため今年度分から見直した。 	
			3-1-1	創業支援制度の構築	<p>(2)新規創業者等支援事業費補助金(商工)</p> <p>【岡松委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> お試しで空き店舗を利用して出店できる仕組みはないか。身内でやってみてみたいがどうやっていいかわからないということがあった。 <p>【小島委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店街の空き店舗率はどれくらいか。 住んでいても商店街に行くことがない人が多い。ここに来たいというお店がもっと必要。何が来てほしい。 商店街よりもゆめタウンに促しているということではないか。 周遊バスはトロリーバスや何かかわいいデザインなど、目立つようにしたほうがいい。 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商工会議所でそのような事業がある。 空き店舗は26%となっている。 物販系のお店が減り、飲食が多くなっている。最近はミニ四駆やカードゲームなど趣味の場所として活用するケースも出てきている。 地域の中小企業事業者支援という観点もあり、商店街振興も行う立場。ゆめタウンー商店街の回遊性という点では周遊バスも出している。 ラッピングバスにするなど工夫はしている。 	
		3-1-2	ワンストップ窓口の設置	<p>(1)創業に関する情報を一元的に提供する窓口の設置</p> <p>①起業家育成事業(産学)</p> <p>【田中委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通してどれくらいの学生起業があるか。起業をするのは出身が地元の学生か。 域内に企業ができて、学生らの地元就職にもつながることを期待したい。 <p>【荒木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別相談件数が34件とあるが、想定はどれくらいであったのか。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登記までいくのは年間概ね1-2件程度。地元ではないことが多い。 企業や就職で一度飯塚市外に出ながらも、また飯塚に戻ってきてもらうということも意図している。 当初は60件ほどを想定していた。ワークショップを開催するなど増やす試みは行った。学生の中で口コミのように広がっていくことを期待し、継続して取り組む。 		
		3-1-3	起業家及び技術者コミュニティの育成支援	<p>(1)スマートアプリコンテストの開催</p> <p>①スマートアプリコンテスト事業(産学)</p> <p>【岡松委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテストから実際に社会実装に繋がった事例はあるか。 アプリの内容・テーマは設定されているか。 <p>【荒木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> せっかく協力企業があるのであれば、企業が後押ししやすいサブテーマを設定してみてもどうか。 <p>【小島委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般の人が見に行くことは可能か。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> なかなか生まれてこない。1件もなし。企業賞を出していただいたところが、事業化までブラッシュアップしていただける仕組みになるといいがそのようには至っていない。 今年度は社会課題解決など、大きいテーマを設定している。 以前はスマートフォン向けに絞っていたが、アプリ全般に広げた。地元からのエントリーが少ないという状況もあり、今年度からは市内小中学生のコンテストも同じタイミングで開催する。 コロナ前に3つ個別テーマを設定したが、審査が複雑になった経緯があった。試行錯誤をしている。 九工大学祭の中で実施する予定でもあり、オープンにしている。しっかり周知していきたい。 	<p>【産学振興担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査が複雑化しすぎない範囲で協力企業が入り込みやすい設定を行う。 	
			3-1-3	若年層、女性、農業者を含む市民向け起業塾の開催拡大	<p>(2)若年層、女性、農業者を含む市民向け起業塾の開催拡大</p> <p>①創業セミナー(商工)</p> <p>【長田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナー参加者のうち、実際に創業したケースは何件か。 <p>【荒木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者は重複しているのか。 創業した業種はどういったところか。 	<p>【商工観光課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2022年度は5名、2023年度は8名。 商工会等で実施しているため、重複かどうかは把握していない。 製造、建設、サービス、飲食となっている。 	
				②創業塾・創業個別相談会(商工)			

部会意見まとめと方向性（赤字：施策シートの修正が必要な箇所、太字：委員からの意見）

		項目				委員質問・意見	事務局回答@部会	太字意見に対して今後の方針
3 新しい会社づくり	3-2 企業誘致	3-2-1 企業誘致の推進	(1)工場等を移転・設置した企業向けの助成（工場等設備投資・雇用助成等）の実施	①企業立地促進補助金事業（企業）	<p>【長田委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の事業とは別に何かするということか。 金額はどれほど出るのか。 <p>【荒木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市としては、補助金を投下しながらも長期的には税収増が見込めると思うが、何年ほどで補助金費用負担分を回収できるのか。 	<p>【企業誘致担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新設の場合はその通り。別途増設もある。 2023年度は上限1.2億円、2024年度は上限2～8億円（投資額に応じ、雇用者数の条件もあり）。 固定資産相当額の80%を上限に5年間補助するというので、補助金額は実質4年分相当になる。 		
			(2)企業立地用地の整備・確保	①工業団地整備事業（企業）	<p>【荒木委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊本の動きなど周辺自治体がいろいろと動いている中で、飯塚を選んでもらえるような仕掛けはあるのか。 TSMCは単発で終わっておらず、今でも事業所を福岡に置きたいという声から聞こえる。福岡市などで抱えきれない部分も飯塚市がうまく拾えるようにしてほしい。 	<p>【企業誘致担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在市内にある23団地は完売している。そういった中で進出したい、市内企業でも増設したいというときに、市外へ流出しないように新たな工業団地の準備をしている。 筑穂地域のあかね工業団地は市の一番南に位置し、200号線冷水バイパス沿いになり、空港や高速道路（小郡IC⇒熊本方面）へのアクセスの良さも売りにしている。 さらに企業立地促進補助金事業も用意し、他市にも負けないようなメニューがある。 半導体そのものの製造は水の問題があり難しいが、製造装置や物流拠点などを想定している。 	<p>【企業誘致担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度から当市では大規模投資に対応した既存優遇制度を拡充、福岡県も優遇制度を拡充したことから積極的な企業誘致活動に取り組んでいきたい。 企業立地用地の確保としては、新規工業団地の整備を進めるとともに民有地の活用なども含め進出企業のニーズに応えられるよう対応していきたい。 	
		3-2-2 首都圏での企業誘致活動実施	(1)首都圏での企業誘致活動の実施	①企業誘致推進事業（企業）				